特集　とうがらし・わさび
Ⅱ　わさび【産地の取組】

長野県におけるわさび振興

長野県農政部園芸畜産課　**伊藤　勝人**

1　長野県のわさび生産の概要について

長野県の特用作物は、多様な自然環境条件を活かして葉たばこやホップ、わさび、薬用作物、山菜類などが、中山間地域の重要な作物として、適地適作を基調に導入されてきました。その中でわさびは、古くから山中で自生していたものを、明治時代に安曇野市穂高において梨畑の排水溝に移植したものが、栽培の最初とされています。その後、大正時代に栽培面積を拡大し、長野県の主要特産物として全国に知られるようになりました。しかしながら、近年生産者の高齢化により、生産量は20年前の半分程度になっています。（表１）

本県のわさび生産量は、976.6トン（平成24年産）で全国の34％を占め、全国第１位の生産県です。その内訳は水わさびが945.3トン、畑わさびが31.3トンであり、大半が水わさびとなっています。（表２）

本県の水わさびは、安曇野市穂高地域およびその周辺地域で大半が生産されています。この地域で行われている平地式と呼ばれる独特の栽培方法は、安曇野市以外ではあまり見ることのできない栽培法です。北アルプス山麓の伏流水による湧水を利用した平坦地での栽培法であり、他県の傾斜地を利用した栽培法とは以下の点において特徴があります。

長所としては、ほぼ平坦な土地で栽培することができるため、１ヶ所の栽培面積が広く、整地や施設の導入を進めやすく、効率的であること、収穫までの期間が短いことが挙げられます。その反面、短所としては冠水による被害を受けやすい、栽培には寒冷紗等による被覆が必要、作土の老朽化が早いという点が挙げられます。（写真１、２）

本県ではわさびを観光資源としても重視しており、安曇野市には大々的にわさび田を観光客に公開している農場もあり、農場及びその周辺地域は映画やドラマのロケ地としても活用されています。加工品としては、わさび漬が知られており、安曇野市内には多数のわさび漬関連業者が軒を連

表１　長野県産わさびの生産動向

（単位：ha，t）

年	水わさび		畑わさび		合　計	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
H2	94	1,383	98	362	192	1,745
H12	73	1,588	51	110	124	1,698
H17	72	1,799	36	65	108	1,864
H22	35	1,062	12	24	47	1,086
H23	39	990	18	53	57	1,043
H24	35	945	8	31	42	977

出典；特用林産基礎資料：林野庁

表２　平成24年産全国主要産地の生産量内訳

（単位：ha，t）

区　分		全国計	1位	2位	3位	4位	5位	長野県産シェア
			長野県	岩手県	静岡県	山口県	島根県	
水わさび	面　積	198.9	34.5	0.5	109.4	6.1	8.8	17.3%
	生産量	1,535.4	945.3	24.0	434.2	3.6	4.5	61.6%
陸わさび	面　積	452.6	7.8	2.6	5.9	17.8	20.9	1.7%
	生産量	1,355.3	31.3	684.9	197.1	109.8	75.4	2.3%
合　計	面　積	651.5	42.3	3.1	115.3	23.9	29.7	6.5%
	生産量	2,890.7	976.6	708.9	631.3	113.4	79.9	33.8%

出典；特用林産基礎資料：林野庁

写真１　安曇野での栽培風景

写真２　施設内での栽培風景

ねています。安曇野市内で生産されている水わさびの多くがわさび漬に加工され、販売されています。近年の消費・流通動向としては、食生活の変化に対応し、肉料理にあう調味料やスイーツへの利用など、わさびを活用した新しい商品の開発・販売が進められています。

２　長野県のわさび振興の取り組みについて

（１）水わさびの品質向上のための取り組み

本県で多く作付けされている水わさび栽培に使用可能な水は流水であり、停滞水では根腐れなどの障害が発生するため、栽培適地は限られています。そのため、従来の本県でのわさび振興の基本方針は、既存の水わさびの栽培適地での品質向上に重点が置かれてきました。

しかし、近年までわさび栽培に使用できる登録農薬が無かったことから、アブラムシによる被害が大きく、高品質のわさびを生産するためには大きな障害となっていました。また、水わさびは水系上で栽培されるという、特殊な栽培環境であることから、他の作物と比較しても農薬の登録が困難な状況であったため、その対策として県では平成14年より信州山葵農業協同組合(安曇野市穂高)とともに、県関係機関（松本地方事務所、松本農業改良普及センター、野菜花き試験場等）による「水わさび病害虫防除対策委員会（事務局：長野県松本地方事務所農政課)」を設置しました。本委員会では主にアブラムシ等害虫の発生・被害状況の実態把握、耕種的防除の模索、さらには使用可能な農薬の登録に向けた総合的な検討等を実施しました。

その後、平成19年に国、関係県（長野、静岡)、農薬メーカー等で、アブラムシ防除に効果のある３剤の農薬登録に向けた検討会議を開催し、長野県・静岡県で必要な試験を実施し、平成19年末には、必要なデータが揃い、国、県段階の安全使用体制が整備されたことから､農薬メーカーにより、農薬登録申請が行われ、平成20年２月29日にわさび専用剤として登録されました。

本県では登録後も、独自に使用基準を設け、流水量及び農薬のモニタリング調査を定期的に実施し、使用する農家には農薬安全使用講習会（写真３）の受講を義務付け、環境への影響が生じないよう努めています。

これらの取り組みにより、環境に配慮した品質の高い水わさびの生産が行われています。

（２）生産拡大のための取り組み

近年、わさびは世界的な和食ブームの高まりから需要量が増加し、実需者から生産量の増加を求められています。しかしながら、栽培適地が限られる水わさびだけでは、需要量の増加に生産量が追い付かず、需給に大きな差が生じつつありました。そこで、本県では平成24年度より県内加工メーカーと連携して、新規に畑わさび栽培の導入を目指す生産者に対し、支援をしています。

栽培希望者向け説明会と栽培技術講習会、畑わさびの先進地である岩手県での先進事例視察、畑地と林間地へのモデルほ場の設置（写真４、５）

写真３　農薬講習会

写真４　畑わさびのモデルほ場（畑地）

など、取り組み始めて３年が経過しますが、来年度には本格的な出荷が見込めるまでになりました。

今後は、これまでの取り組みをモデルに、栽培面積が拡大し、さらに新たな生産者が増えていくことを期待しています。

（３）品質向上のための取り組み

毎年10月、長野県わさび振興協議会など、関係

写真５　畑わさびのモデルほ場（林間）

団体等が協力して「長野県わさび共進会」を開催し、生産技術の向上を図っています。安曇野市を中心に毎年50点余りが出品されており、平成26年度で36回目を迎え、定着しています。また、本県は加工用わさびが主体の産地ですので、以前は丸掘りのわさびのみが出品される共進会でしたが、平成24年度より用途の多様化から丸掘りの部（露地・ハウス）と根茎の部の３部門からなる共進会として、生産・消費実態を反映して開催しています。

３　今後の取り組みについて

本県では、今後も需要に対応したわさび生産が行われるよう、水わさびについては、品質の高位平準化に向けた取り組みを続け、畑わさびについては、現在の優良事例を県内各地に広められるよう、得られた情報を元に更なる新産地の育成を図り、生産面積と生産量の拡大を目指します。